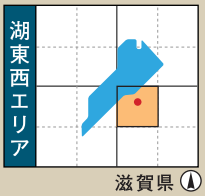
史跡
国指定

瓢箪山古墳（ひょうたんやまこふん）

安土町桑實寺　昭和32年7月1日指定



瓢箪山古墳は、佐々木六角氏の居城、観音寺城のある繖山（きぬがさやま）の麓から東に突き出た丘陵上に築造されています。4世紀中頃に築造された県下最大の前方後円墳で、墳丘上からは、5つの埋葬施設が発見され、中からは豊富な副葬品が見つかっています。

当時のできごと	
353年	敦煌 千仏洞を彫り始める
364年	百済人 倭国との通交を求める
391年	倭国 百済、新羅を破り臣民とする

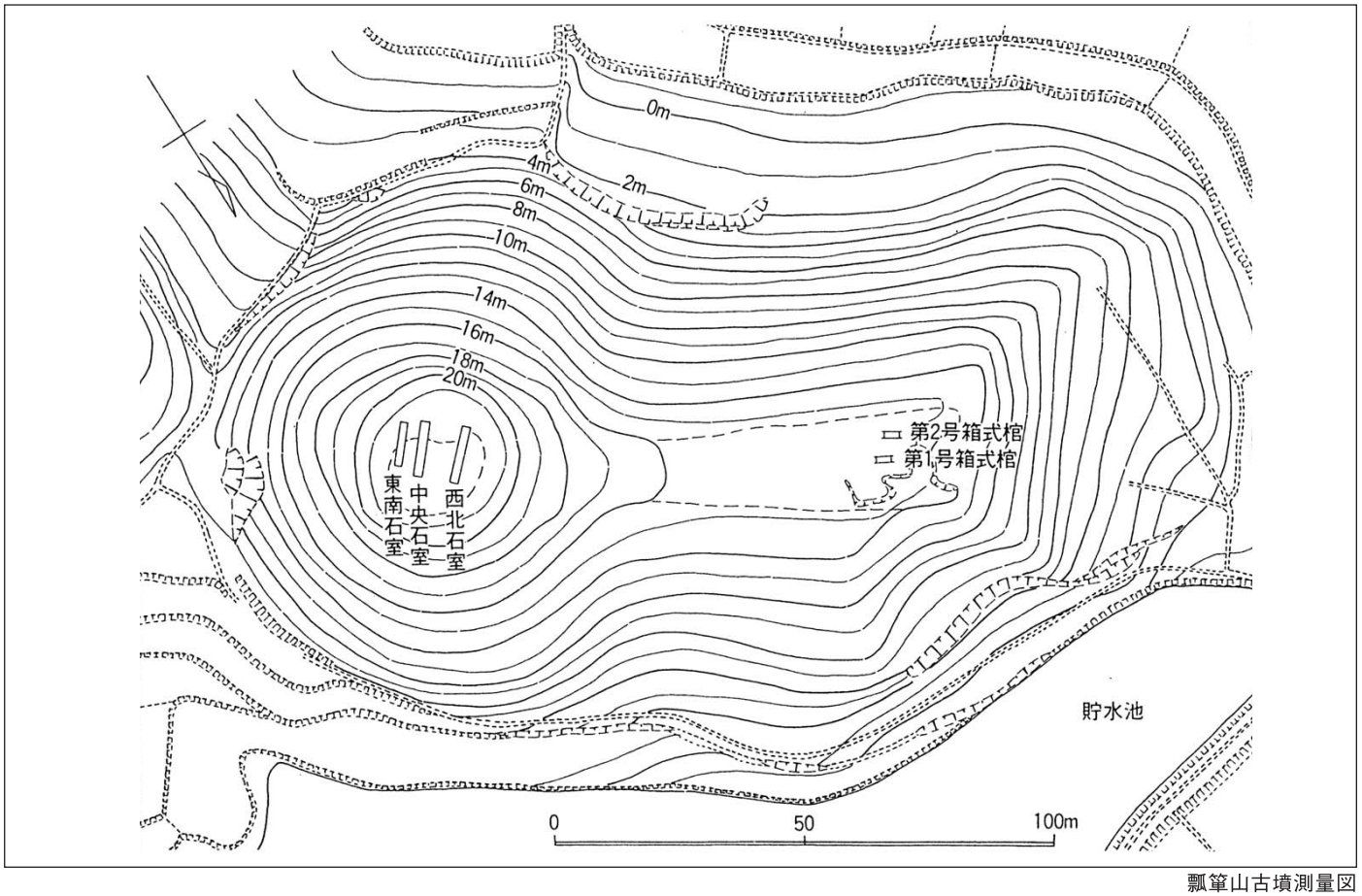
古墳の立地と墳丘

瓢箪山古墳の立地する丘陵の周辺は、現在、住宅地となっていますが、かつては、琵琶湖に続く内湖がここまで入り込んでいました。つまり、古墳は湖に突き出た半島の上に築造されていたことになります。また、古墳の背後には、蒲生郡、甲賀郡を経て中京地方や大和へぬける主要路に通じており、水陸の交通の要衝に立地していることがわかります。

墳丘形は、自然の地形を利用しながら整形した典型的な前方後円墳で、全長約134m、後円部径約78m、後円部の高さ約13mを測ります。墳丘上からは、円筒埴輪や、底部を穿孔した壺などが出土していますが、葺石や、段築などは明確には確認されていません。



瓢箪山古墳全景



瓢箪山古墳測量図

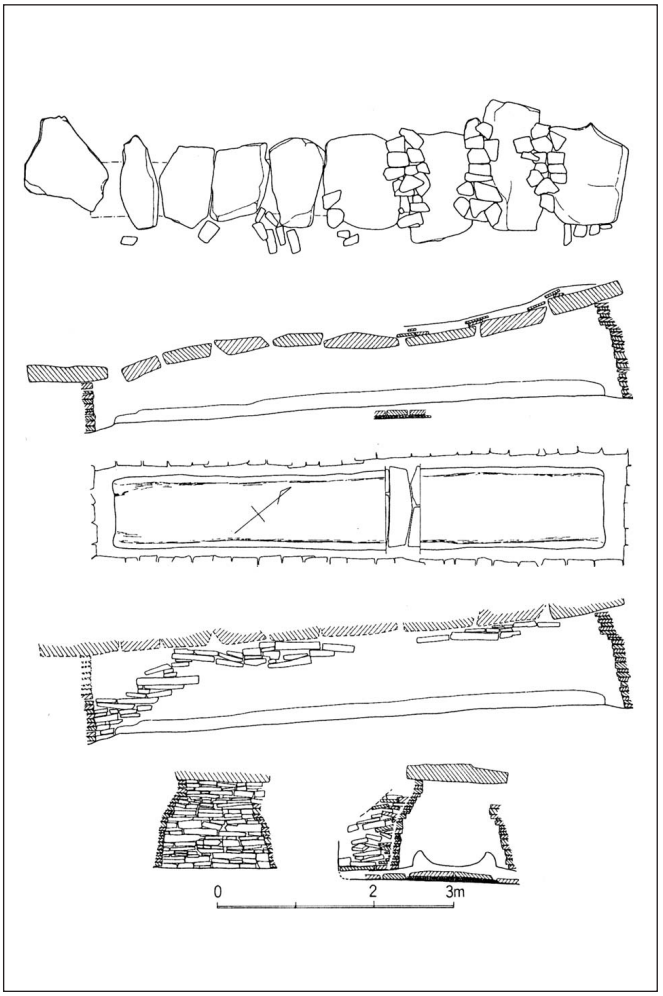
埋葬施設と出土遺物

昭和10、11年に発掘調査が行われています。その結果、後円部から主軸に直行して並ぶ3基の竪穴式石室が、前方部からは主軸に平行する2基の箱式石棺が発見されました。この古墳は、一番立派な、後円部中央の石室に葬られた人のために造られたもので、その他の埋葬施設には、彼（彼女）の近縁の者が、順次葬られていったものと考えられます。

後円部中央石室は、長さが6.6m、幅1.3m、高さ1.1mで、中に粘土を敷き、この上にコウヤマキ（学習シートNo.125）で造られた長い木棺「割竹型木棺」が置かれていました（木棺は腐朽し残っていません）。この中からは、被葬者の顎骨を始め、銅鏡、玉類、石製腕飾、武器武具類、農耕具など多くの副葬品が納められ、石室の上は9枚の平たい石で蓋がされていました。左右の石室からは、小金具や人骨、前方部の箱式石棺からは玉類、石製腕飾などが出土しています。これらの副葬品の年代から、この古墳は、4世紀中頃に築造されたものと考えられます。



中央石室復元模型（安土城考古博物館）



中央石室実測図

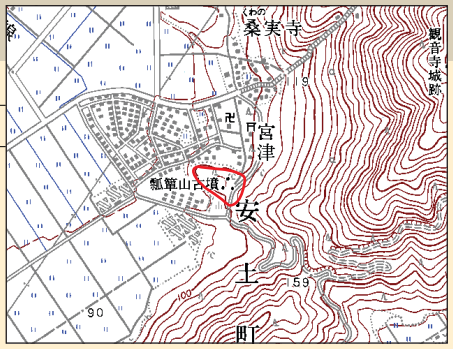
関連する文化財

雪野山古墳（八日市市）	未盗掘の前期前方後円墳
膳所茶臼山古墳（大津市）	学習シートNo.003
荒神山古墳（彦根市）	荒神山の中腹にある大前方後円墳

もっと深く知りたい

安土城考古博物館	☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678
安土町教育委員会	☎0748-46-7214　蒲生郡安土町大字小中1-8

瓢箪山古墳へのアクセス　ＪＲ琵琶湖線　安土駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔前方後円墳集成〕山川出版　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月